

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第8週〔2月22日～2月28日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
 E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

○ 患者情報総評

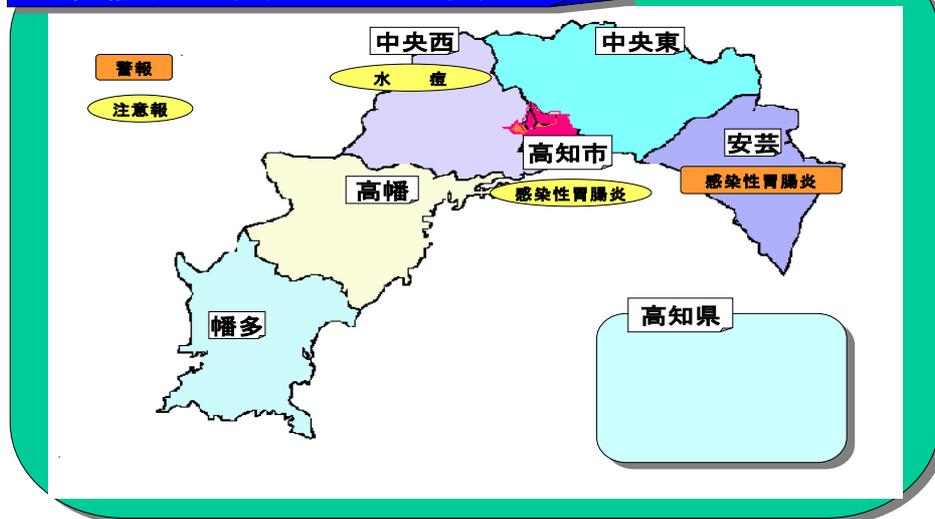
注意報発令疾患：なし

- ・ 気温は大幅に上昇し、20℃を越す日もあり、過ごしやすい日が続いた。
- ・ 感染性胃腸炎（安芸：注意報→警報，高知市：警報→注意報）は安芸と中央東では増加したが、その他の地域で減少した。総数は引き続き減少し、注意報値を下回った。
- ・ インフルエンザは総数はさらに半減し、全ての地域で定点当たり1.0（流行基準値）を下回った。また、今週は施設での集団感染は報告されなかった。
- ・ RSウイルス感染症は安芸と高幡を除く地域で減少し、総数は前週の約6割に減少した。
- ・ 水痘（中央西：注意報）は中央西で大幅に増加し、注意報値を超した。

上位疾患構成図

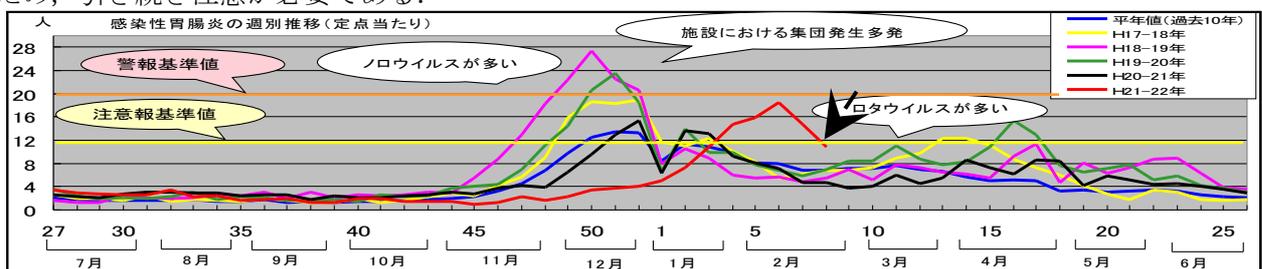


地域別感染症注意報・警報発生状況 第8報（2010年2月22日～2010年2月28日）



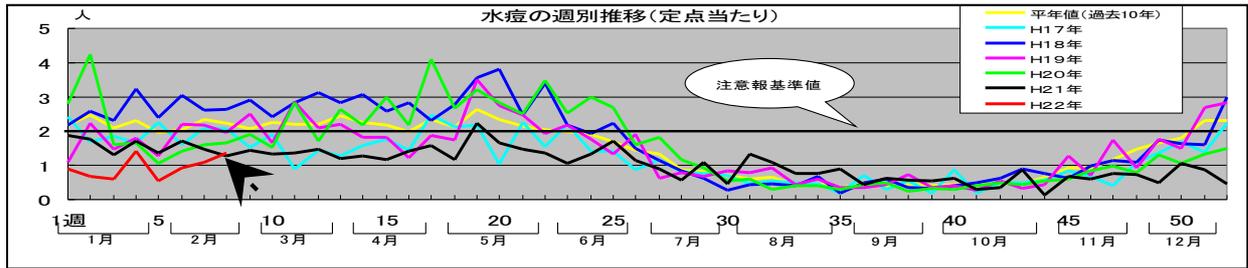
感染性胃腸炎：今週10.83（注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数は先週に引き続き減少し、注意報値を下回った。地域毎にみると、安芸と中央東で増加しており、特に安芸では再び警報値を超した。今週集団感染は確認されていないが、搬入された検体からはNorovirus GIIが4件検出されている。また、例年であれば、今後はRotavirusが流行する時期となるため、引き続き注意が必要である。



水痘：今週1.37（注意報値：2.00 警報値：4.00）

地域毎には増減しているが、総数はさらに増加し、第5週以降4週連続で増加している。例年、6月頃までは流行がみられる疾患であり、今後の推移が注目される。



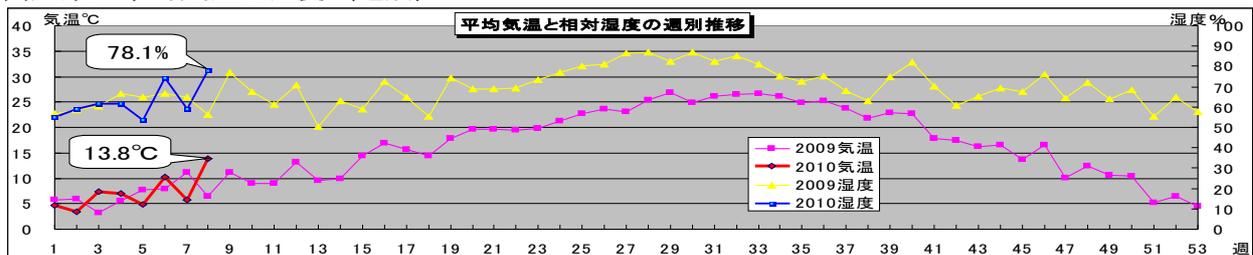
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
8	インフルエンザ	4歳男	高知市	Influenza virus AH1pdm
8	インフルエンザ	9歳男	高知市	Influenza virus AH1pdm
3	感染症胃腸炎	1歳女	中央東	Parechovirus
8	感染性胃腸炎	8ヵ月男	高知市	Norovirus G II
8	感染性胃腸炎	5歳女	高 幡	Norovirus G II
8	感染性胃腸炎	2歳女	高 幡	Norovirus G II
8	感染性胃腸炎	6歳男	高 幡	Norovirus G II

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 2例（26, 47歳女）《高知市》（今年20例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：インフルエンザの1例はB型陽性
 《さたけ小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性 マイコプラズマ感染症 2例（1歳男，2歳女）
 ヘルペス性歯肉口内炎 1例（2歳男）
 《松谷内科》：感染性胃腸炎と思われる症例が3～4例あり（発熱，嘔吐があり，下痢症状はあまりない）

高幡：

《もりはた小児科》：RSウイルス感染症と感染性胃腸炎の流行が続く。インフルエンザは今週も0名
 《須崎くろしお病院内科》：インフルエンザの1例（21歳女）はA型陽性

中央西：

《石黒小児科》：インフルエンザの1例（11歳女）はA・B型両方陽性
 《土佐市民病院内科》：インフルエンザの2例はA型陽性

高知市：

《福井小児科・内科》：インフルエンザの1例はA型陽性，新型・季節性両方ワクチン接種済み
 《けら小児科・アレルギー科》：インフルエンザの1例はA型陽性
 アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳男）
 百日咳の1例（11歳男）は東浜株640倍，山口株640倍

《塩見クリニック》：インフルエンザの1例はA型陽性
 《高知医療センター小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性
 《近森病院内科》：インフルエンザの2例中1例はA型陽性

中央東：

《早明浦病院小児科》：ノロウイルス感染症と思われる感染性胃腸炎が流行中
 《JA高知病院内科》：インフルエンザの4例は全てA型陽性
 《野市中央病院内科》：インフルエンザの1例（35歳男）はA型陽性
 《嶺北中央病院内科》：インフルエンザの1例は予防接種歴あり

安芸：

《田野病院小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性，予防接種歴あり

全国情報第6週 (2/8～2/14) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核226例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症12例（有症者8例、うちHUS なし）、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎6例、つつが虫病5例、デング熱1例、マラリア2例、レジオネラ症5例

5類感染症：アメーバ赤痢3例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群13例（AIDS 4例、無症候9例）、ジアルジア症1例、梅毒4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん5例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎3例、レジオネラ症2例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆インフルエンザ

北半球の国々では、減少しながらもインフルエンザの流行が続いているのは、ヨーロッパの東部および南部、南アジア、東アジアの一部の地域となっている。西アフリカのいくつかの国では、患者数の増加が報告されているが、社会への広範な流行を示唆する十分な根拠はない。タイとジャマイカでは、呼吸器疾患の発生が増加していると報告されているが、現時点ではその原因は明らかではない。東アジアでは、新型インフルエンザの流行は残存しているが、中国、日本、韓国では減少し続けている。

2010年第6週のインフルエンザの定点当たり報告数は2.81（報告数13,479）となり、3週連続で減少した。都道府県別では福井県（7.97）、沖縄県（5.66）、埼玉県（5.39）、山梨県（5.18）、佐賀県（4.87）、静岡県（4.77）、岐阜県（4.11）、茨城県（3.90）、福島県（3.73）、栃木県（3.63）の順となっている。佐賀県を除く46都道府県では前週よりも減少し、全ての都道府県で10.00を下回った。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数の推計値は約15万人（暫定値）と減少し、第28週以降これまでの累積の推計受診患者数は約2,043万人（暫定値）となった。性別では男性約1,055万人（51.6%）、女性約988万人（48.4%）であり、年齢群別では5～9歳約514万人（25.2%）、10～14歳約473万人（23.2%）、15～19歳約279万人（13.7%）、0～4歳約226万人（11.1%）、20～29歳約217万人（10.6%）、30～39歳約153万人（7.5%）の順となっている。全ての年齢群で、前週よりも減少かまたは横ばいとなっている。但し、推計受診患者数は、受診患者数の多い医療機関がより多く選定されている傾向があることなどから、真の受診患者数より過大であると考えられている。この点を踏まえ、推計受診患者数についてはあくまで参考値として理解していく必要がある。

患者報告数が増加し始めた2009年第28週以降では、2010年第6週までに、全国の地方衛生研究所から26,850件のインフルエンザウイルスの検出が報告され、AH1亜型（Aソ連型）18件（0.07%）、AH3亜型（A香港型）148件（0.55%）、B型14件（0.05%）、AH1pdm（新型インフルエンザウイルス）26,670件（99.33%）とインフルエンザウイルスの検出報告数の大半をAH1pdmが占めている。また、2010年に入っても第1～6週までの6週間で検出・報告された1,422検体中、AH1亜型0件、AH3亜型0件、B型8件（0.56%）、AH1pdm 1,414件（99.44%）と殆どがAH1pdmである状態が継続しており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものと推定される状態が続いている。

定点からの報告数は、2009年第48週をピークに減少し続け、2010年第3週に一旦やや増加したものの、第4週以降再び減少が続いている。例年であれば、現在は季節性インフルエンザの流行シーズンに入っているものの、過去の季節性インフルエンザの流行の水準を大きく下回った状態が続いている。しかし、まだ各地域における散發的な流行はみられており、季節性も含めたインフルエンザの発生動向には注意が必要であると思われる。

◆感染性胃腸炎関連ウイルス2009/10シーズン

2009/10シーズンに入ってから病原体個票による報告では、2009年第36週～2010年第7週にノロウイルス genogroup (G) I 55件（うち、GI/4 2件、GI/12 1件、NT 52件）、GII 577件（うち、GII/1 1件、GII/2 44件、GII/3 20件、GII/4 80件、GII/6 4件、GII/12 5件、GII/13 1件、NT 422件）、G不明99件、サポウイルス22件（うち、GI 3件、GII 2件、NT 17件）、A群ロタウイルス25件（うち、G9 1件、NT 24件）が検出されている。

また、集団発生病原体票ではノロウイルス集団感染事例が150事例 [GII 113事例（うち、GII/2 23事例、GII/3 11事例、GII/4 9事例、GII/12 2事例）、GI 15事例（うち、GI/4、GI/8 各1事例）、G不明22事例]、ノロウイルス (GI+II) & サポウイルス (NT) 1事例、サポウイルス (GI) が1事例、A群ロタウイルス2事例（うち、G3 1事例）が報告されている。

推定感染経路は飲食店などでの食中毒および有症苦情が63事例、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、老人施設・福祉施設、ホテルなどでの胃腸炎集団発生が82事例、その他・詳細不明9事例である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(7週)	高知県(8週末累計) H22/1/4~H22/2/28
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	3	7	10	3	1	2	26 (0.54)	48 (1.00)	8,438 (1.76)	2,519 (52.48)
	咽頭結膜熱									511 (0.17)	4 (0.13)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		8		1	5	15 (0.50)	17 (0.57)	4,844 (1.60)	182 (6.07)
	感染性胃腸炎	41	53	134	33	23	41	325 (10.83)	445 (14.83)	37,813 (12.45)	2,940 (98.00)
	水痘		7	17	11	1	5	41 (1.37)	33 (1.10)	4,548 (1.50)	225 (7.50)
	手足口病		1					1 (0.03)	1 (0.03)	606 (0.20)	12 (0.40)
	伝染性紅斑			1				1 (0.03)	1 (0.03)	272 (0.09)	10 (0.33)
	突発性発疹	2	2	2	1	1	1	9 (0.30)	7 (0.23)	1,492 (0.49)	69 (2.30)
	百日咳			2				2 (0.07)	1 (0.03)	62 (0.02)	5 (0.17)
	ヘルパンギーナ								3 (0.10)	90 (0.03)	10 (0.33)
	流行性耳下腺炎			1				1 (0.03)	4 (0.13)	2,907 (0.96)	33 (1.10)
	RSウイルス感染症	4	1	27	4	10	17	63 (2.10)	105 (3.50)	3,901 (1.28)	595 (19.83)
アフター性口内炎										13 (0.43)	
眼科	急性出血性結膜炎			1				1 (0.33)		10 (0.01)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎								2 (0.67)	362 (0.53)	5 (1.67)
基幹	細菌性髄膜炎									9 (0.02)	
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	9 (0.02)	1 (0.14)
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.29)	1 (0.14)	160 (0.35)	6 (0.86)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									7 (0.02)	1 (0.14)
計 (小児科定点当たり人数)	51 (24.75)	71 (9.78)	205 (18.08)	52 (16.93)	37 (18.25)	71 (14.05)	487 (15.81)				
前週 (小児科定点当たり人数)	36 (17.50)	62 (8.70)	347 (30.22)	66 (21.60)	55 (27.50)	103 (20.15)		669 (21.57)	66,041	6,631 (189.08)	

定点当たり 第8週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週
			中央東	高知市	中央西				
内科・小児科	インフルエンザ	0.75	0.64	0.63	0.60	0.25	0.25	0.54	1.00
	咽頭結膜熱								
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50		0.73		0.50	1.00	0.50	0.57
	感染性胃腸炎	20.50	7.57	12.18	11.00	11.50	8.20	10.83	14.83
	水痘		1.00	1.55	3.67	0.50	1.00	1.37	1.10
	手足口病		0.14					0.03	0.03
	伝染性紅斑				0.09			0.03	0.03
	突発性発疹	1.00	0.29	0.18	0.33	0.50	0.20	0.30	0.23
	百日咳				0.18			0.07	0.03
	ヘルパンギーナ								0.10
	流行性耳下腺炎				0.09			0.03	0.13
	RSウイルス感染症	2.00	0.14	2.45	1.33	5.00	3.40	2.10	3.50
アフター性口内炎									
眼科	急性出血性結膜炎			1.00				0.33	
	流行性角結膜炎								0.67
基幹	細菌性髄膜炎								
	無菌性髄膜炎								0.14
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.29	0.14
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								
計 (小児科定点当たり人数)	24.75	9.78	18.08	16.93	18.25	14.05	15.81		
前週 (小児科定点当たり人数)	17.50	8.70	30.22	21.60	27.50	20.15		21.57	

2010年週報推移(定点当たり)

